

第十回運営推進会議議事録

日時

平成22年6月11日(金) 13時30分～14時30分

場所

グループホームいこい

出席者

網走市地域包括支援センター 小林様

網走市福祉部介護保険課 岩内様

天都山町内会長 田中様

天都山町内会様3名

(五十音順)

グループホームいこい 伊成、山腰、熊谷、後藤悦 他スタッフ6名

会議概要

開会の辞 (伊成)

自己紹介

いこいの現況報告

入居者の平均介護度等の説明(山腰)

要支援2…0名

要介護1…2名

要介護2…6名

要介護3…2名

要介護4…7名

要介護5…1名

*平均要介護…2.9

入居者の年齢構成

最低年齢…65歳

最高年齢…101歳

平均年齢…86.4歳

平成21年12月から平成22年1月までに発生したヒヤリハット、事故の報告(山腰)

	2月	3月
日中	2	3
夜間	1	1
合計	3	4

軽い転倒 5件 その他 2件

インシデント 2件

事故件数 0件

行事報告(山腰)

4月3日 防災訓練

5月 東藻琴芝桜公園などへ花見に外出

5月10日 黒ゆり会によるカラオケ慰問

スタッフ研修報告(山腰)

3月31日 ケアマネ定例会「地域の社会資源を知る」(伊成)

4月22日 小規模社会福祉施設防火安全対策研修会(伊成、山腰)

5月14日 網走市グループホーム部会 スタッフ研修会(山腰、後藤、及川)

5月15日 スタッフをやる気にさせる勉強会(伊成、佐々木)

5月19日、20日 新しい認知症ケアのあり方(藤田、内沢)

5月22日 スタッフ勉強会(参加可能全スタッフ)

5月26日 ケアマネ定例会「悲観が意欲に変わるとき」(伊成、山腰)

「高齢者虐待と介護事故」についての講義(小林様)

包括支援センターの小林様に「高齢者虐待と介護事故」についての講義をして頂きました。

いこい虐待防止委員会の活動報告(虐待防止委員会 藤田)

グループホームいこいの虐待防止防止委員会の活動報告を行う。

藤田

こんにちは、虐待防止委員会の藤田と申します。早速ですが、いこいの虐待防止の取り組みを紹介したいと思います。まず、先月ですが職員全員に虐待についてのアンケートを提出してもらいました。職員が日々の介護の中でこれは虐待に当たるのか？また、虐待とはいかないまでも不適切な言葉遣いなどをしてしまったことはないか、それはいったいどういう状況でのことなのか、を書いてもらいました。提出されたアンケートをもとにまとめた結果、主に介護者にとってですが、時間に余裕がないときや精神的に余裕がないときなどに不適切と思われる言葉がけを行ってしまうという状況が分かりました。時間に余裕がない状況ですが、いこいは日中は必ず職員が各ユニット毎に3名働いています。そのなかで買い物であったり通院介助であったり、また休憩時間もありませんので職員が2名しか居ない時間帯というのも存在します。その中でどうしても時間的な余裕がなく入居者を待たしてしまう場合や、入居者の希望に添えない場合もございまして、そのような時に決して本意ではないとは思いますがぶっきらぼうな言葉がけを行ってしまうということです。もちろんこれは言い訳ができるわけもなく、今後も職員一人一人が自覚を持って改善に取り組まなければいけない問題だと考えています。さて、その中で一つ例を挙げさせていただきます。「ちゃん」づけで名前を呼ばせて頂いている

入居者のことについてです。以前よりいこいではこの「ちゃん」づけが適切なかどうかの議論を行ってきました。その中で年上の方にちゃんづけで呼ぶのは失礼なのではないか、本人がよくても家族はどう思っているのか、我々は本当の家族ではないのに「ちゃん」づけで呼んではたしていいのだろうか、親しみを込めるにしても「なになにさん」と呼んでも親しみがなくなるわけではないんじゃないか、など意見が出ています。しかし、現在のいこいの状況では数名の入居者の方に「ちゃん」づけで名前を呼んでいるのが現状です。恥ずかしいことなのですが、いこいがオープンした当時の考えでは「さん」よりも「ちゃん」やあだ名をつけて名前を呼ばせて頂いたほうが親しみがあるし、本人にとってもいいのではないかと考えていました。しかしいろいろなことを勉強していく中で果たしてそれが本当に正しいことなのか、ひょっとしたら問題があるのではないのか、結論が出ていない状態です。というのも、家族の方や本人が「ちゃん」で名前を呼ばれることを望んでいる場合もありますし、また、認知症が進行する過程で子供の時代を生きておられる場合「ちゃん」で名前を呼ばれた方が本人にとって「さん」よりもより適切なのではないかと考えられるからです。

いろいろな意見がいこい職員の中からでておりました、未だに結論が出ていない状態です。もちろん「ちゃん」であれ「さん」であれ、働いているスタッフは自問自答しながらではありますが、御本人に尊敬を持って接していることには違いがないと考えていますし、私も尊敬を持って接しているつもりです。以上が、虐待防止委員会の取り組みの状況でございます。

小林様「家族からどのように呼んで欲しいのか聞くことも大事だと思います。また、その呼び方で本人を呼んでみて反応を観察し、本人から同意を取ることも大事でしょう。関係作りをしっかりと行い、その上で家族や本人と呼び方を決めたらどうかと思います。」

岩内様「家族との関係作りをしっかりと行いお互いの了解を得ることが大事だと思います。スタッフが自信を持って対応するためにも同意を取ることも大事でしょう。」

閉会の辞（伊成）

大変分かりやすい講義をありがとうございました。虐待を未然に防ぐためには職員会で意見を言い合える関係作りと、また新人であってもその意見を聞き入れる状態を今後も作っていきたいと思います。本日はありがとうございました。